

愛のうちに歩む

2023年10月22日

エペソ人への手紙 5章1～2節
コリント人への手紙 13章4～8a節

序：4：32 互いに赦し合いなさい（聖徒同士）
根拠・理由：イエス・キリストが私たちを赦してくださった

5・1 ですから……
赦す＝神の愛の現れ

I. 神に倣う者となりなさい

(1) 高いレベル

創造者としての神に倣うことではない（人間には不可能）
キリスト・イエスが公生涯で示してくださった救い主としての御業＝献身
神と隣人に仕える

(2) 神に愛されている子どもらしく

愛されている子ども……親に対する信頼、愛されている確信、親の庇護への安心
愛されていない？と疑わない
父を喜ばせたいという思い
父への尊敬・自分も同じようになりたいという願い（積極的・受身ではなく）
父のように考え、語り、行動しようとする意思
父が愛してくれたように、自分も愛をもって応じたい

(3) 神に倣う典型は互いに「赦す」こと

汝の敵を愛せよ = 敵対者を赦す

II. 愛のうちに歩みなさい

(1) 愛の定義（実践的・具体的） コリント I 13・4～7

寛容 親切

妬まない 自慢しない 高慢にならない

礼儀に反しない 自分の利益を優先しない

苛立たない 人がした悪を心に留めない

不正を喜ばない 真理を喜ぶ

すべてを耐える（おおう）すべてを信じる すべてを期待する

すべてを耐え忍ぶ（踏み留まる、流されない）

注：すべて≠何でも、全部

=徹底的に

(2) イエス・キリストの模範

愛を示された方法：ご自分のいのちを代価として、敵である私たちを救うために
ささげてくださった

① 私たち罪人（反逆者・敵対者）のために

② ご自分をささげてくださった

神へのささげ物として = 人となって来てくださった主の地上生活全体
いけにえ = ささげ物の中でも十字架上のまっ贖いの死が中心

神の律法をすべて欠けなくことごとく完うされた

神の要求される聖と義は、「世の罪を取り除く神の小羊」として、十字架
上の死により満たされた

③ 芳しい香り 全焼のささげもの = すべてを神にささげる

① 創 8・21 ノアが洪水後ささげた
芳しい香りをかぎ、二度と水では滅ぼさない約束

② レビ 1・9、13、17

祭司が全焼のいけにえをささげる際の規定

イエス・キリストは自分から進んで、御父に従順して死なれた

積極的にご自分の贖い主としての働きを完うなされた

Ⅲ. 結び

(1) 聖徒が神に似た者になっているかどうかは、ほかの人を「赦す」ことで測られる

(2) 愛のうちに歩んでいるかどうかは、コリントⅠ 13・3～7の「愛」に自分の
名を置き換えてみるとわかる（いかに愛のない者か）

(3) 赦せない時、愛せない時どうするか？ 主から供給していただく以外に方法はない
主イエスが自分を贖ってくださったこと、罪が赦されていること、神に愛されて
いる子どもであることを再確認すること
自分だけでなく、ほかの聖徒たちも同様である（神の家族）ことも再認識する

(4) 愛・赦しは自発的、積極的であること

他人に強制されてではなく、しぶしぶ、いやいやながらも進んで、
喜んで

(5) ふさわしくささげられた全焼のいけにえは、神に受け入れられ、喜ばれる芳しい
香りである（贖われた自分自身、神にいっさいを帰する奉仕、生活のすべて）